

若手研究者問題 個人vs全体の視点

横山広美 よこやまひろみ

東京大学大学院理学系研究科

科学コミュニケーション分野 准教授/ 広報室副室長

●日本学術会議若手アカデミー委員・他

個人(他分野/女性)に注目すると

- ポスト数について
 - 振興分野、そもそもない
 - 国立大学の人員削減(現ポストを削る)
 - 分野の特徴(役立つ実学)とポストの関係
 - 女性研究者の立場から
 - 育児に関する社会的サポート
 - 採用時の文言
 - RPDの活躍
 - 女性枠への抵抗/必要性
- ポストを増やして、
安定させてという陳情になってしまう

Nature Japan HP

科学に挑む女性研究者たち
キャリアパスの現状と課題にせまる



若手の大問題

- もともと、高等教育への投資が低い(GDP比0.5%)
- さらに、大学運営費の削減
 - 小さい大学ほど、若手ポストを減少(助教ポスト)
- 国立大学における定年延長
- 結果、教授が増え若手ポストが減る

全体の大問題

- まったなしの大問題

2000年代に入って、日本だけが論文数停滞
出せるはずの結果が出せていない
政策的な修正が必要

– 複合的な要因(法人化や研究時間の減少など)

– そのひとつは、確実に若手問題

- 特に、日本は教授割合が非常に高い
- 反対に、若手教員の割合が非常に低い
- 若手ポスト数の減少が論文数を下げている？

個人vs全体 ⇒ 個人∞全体

- 若手の大問題と、全体の大問題はつながっている
- しかも、改善策（若手ポストを増やす）は個人にとっても全体にとってもプラス
- あとはパイの問題だけ
- 政策的に決めるしかないのではないか